

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (51)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

アメリカの著名な英語言語学者 G. Lakoff 氏が Trump 氏の英語に特別に注目していることは本連載(10), (31)で言ったが、氏は “Trump has turned words into weapons and he’s winning the linguistic war.” 「トランプは words (語) を weapons (武器) に変え、言語戦争に勝利しようとしている」ともネット上で書いた(June 13, 2018)。目下も Lakoff 氏は Trump 氏の英語を多角的に分析(taxonomical analysis)しつづけているはずである。

本連載では語釈として F. Saussure 風の言語使用の社会的機能から見る構造主義(structuralism)に立脚した textual [discourse] analysis (テキスト・談話文分析)の方法を考えているが、これは今日的な自然言語の機械処理の問題とも絡んでいる。応用言語学(applied linguistics)・電子工学(electronic engineering)の研究成果から生成 AI で Q & A 式対話型 ChatGPT などとも結びつく。さらにこれは N. Chomsky 風の無限の文を産み出す(sentence generation)文法、また 1970 年代に C. J. Fillmore が提唱し今日まで根強く継承されている Frame Semantics (フレーム意味論)とも表裏一体をなす。

今回の(1)は国境の不法移民に関する文例、(2)は時間をさらにさかのぼり Trump 氏の商取引上での不満とその対応ぶりがよく分かる文例でスペイン語翻訳版とも対照する。

(1) If President Obama made the deals that I have made, both at the Border and for the Economy, the Corrupt Media would be hailing them as incredible, & a National Holiday would be immediately declared. With me, despite our record Economy and all that I have done, no credit! (June 9, 2019)

▲前回扱った tweet の 2 日後の Trump 氏の tweet で、「国境の不法移民の処遇と財政上の問題に関しメキシコ側と合意に至ったが、仮にオバマ前大統領がこれを成し遂げたなら腐りきったメディアは素晴らしいと彼を称賛し国家的祝日が設けられるだろう、私がどれだけこれまでにない功績を残しても何ら良い評価をしてはくれない！」と言っている。for good or bad (良かれ悪しかれ)、Trump 氏の言説には驚かされる。

If を振り出しとした最初の文で下線語 make の過去形 made と、2 つの will の過去形 would が用いられ叙想法(subjunctive)となっている。現在完了形 have made で叙実法(indicative)も織り込まれる。2 番目の文では have done が叙実法。本連載(5)の①などで触れたが日本人は話し手の心的態度である英語の叙法(mode)で、叙実法と叙想法の 2 分割での叙想法による感情表示に弱い。本連載前回(50)でも触れた能動・受動の態(voice)の 2 分割もしかりであるが passivization (受動態化)の問題も情報構造的に thematization (主題化・テーマ化)とも関わる。受動態は EP 本では II の巻末頁(pp.155-156)での提示となり、III では is used の形(p.3)で初出となる〔受動態化などの問題は日本ベシック・イングリッシュ学会(名称は当時)、研究紀要(2001), No.10 での拙稿参照〕。

二重下線の with me (私に関しては、私の場合には)の使い方にも要注目である。文 I am here. も I am here. ⇔ my being here ⇔ with me here で、これとも関わる。

文頭の太線語 if は叙想法の明示的な marker (指標)であるが、これのルーツは一般には古英語(OE)の gif までしか示されないが、印欧祖語 PIE までさかのぼると音素形 /I/

に至りつく。この /I/ が古英語を経てラテン語の *ipso* (= *by*)、そしてさらに *ipso facto* (= *by the fact*) に由来し「事実としてみても、事実にとつて」から「同一視すること」のような意味だったらしいことも見えてくる。その点では *if* (もし・もしや) は英語の *yes/no* での *yes* (音素 /jes/) の意味ともつながっている。その証の1つは英語の *if* はラテン系スペイン語では *si*、英語の *yes* は *sí* でアクセント符号付きで強音化の違いだけである。

太線語 *declare* (宣言する) の [dɪklɛə] の [klɛə] の音感から Basic 語 **clear** [klɪə] などと同系であろうと直感したい。他に Basic 語 **clean**, プラス α Basic 語 *clay* (粘土) など、un-Basic 語では *clear* な音の出る楽器の *clarinet* (クラリネット) も同系。

clear, clean などの PIE etymon (印欧祖語の原形) 音素形は、実は本連載(24)の(1)ですで見えたが /GHEL/ とされ、原義は「滑らかで輝きを放つこと」である。この PIE etymon の初頭音素形が /K/ ではなく /G/ であることからすれば、有声の [g] を初頭子音にもつ同系語もあるはずとなる。事実、Basic 語 **gold, glass**、プラス α Basic 語 *glory, glad* など、また un-Basic 語 *glance, glare, glisten, glow, glide, glue* (にかわ)、*gloss* (光沢) などきわめて多くの語が同系語として一括される。いわゆる三種の神器の1つともされこの世のあらゆるものを写し取って見せる不思議な「鏡」(*looking-glass*) の放つ輝きともこれらの語は意味的に一致する〔他の例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(60)参照〕。

三種の神器で Basic 語 **blade** (剣・刃物) も「光り輝くこと」が原義で、Basic 語 **blood**、un-Basic 語 *blink, blaze* などが同系〔同上拙著、第二部、例(64)参照〕。さらに三種の神器 '*magatama*' *jewel* での Basic 語 **jewel** も光り輝くもので、この *jewel* の同系語に *joke* (冗談) などがある。三種の神器はすべて「輝くもの」だということになる。

関連して、やはり武器の剣の意味のプラス α Basic 語 *sword* の音声は [sɔəd] で [w] 音をもたないが、phonics (フォニックス) 的に文字に *w* を残しているので古くは [w] 音をもっていた証となる。*sword* の PIE etymon 音素形は /SWER/ が復元されている。

なお、文中の *hail* (絶賛・称賛する) は本連載(33)の(1)で扱ったが、Basic 語によりどこを求めれば **healthy**、またプラス α Basic 語 *holy* (神聖な) と同系。un-Basic 語では *holiday* (< *holy* + *day*) などとも同系〔他の例は同上拙著、第二部、例(129)参照〕。To your health! (健康を祝し乾杯!) という言い方もある〔これは Basic の範疇で言えば単に To you! でよい〕が、*hail* は元来は叫び声で擬音語 (onomatopoeia) と考えられる。

上文を (5×n) 個の乗法 (multiplication) による階層的な升目でパターンを確認したい。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	If	President Obama	made	the deals	φ
2	that	I	have made,	φ	both at the Border and for the Economy, /
3	φ	the Corrupt Media	would be hailing them	as incredible,	φ
4	&	a National Holiday	would be immediately declared. //	φ	φ
1	φ	φ	φ	φ	With me, /

2	φ	φ	φ	φ	despite our record Economy and all
3	that	I have done,	no credit. //:	φ	φ

(備考) 単一斜線 (／) は各々の文での意味的 2 分割線。空 (くう) の項 φ の認知もポイント。

各語 (句) の意味が分かり、文の **pattern recognition** (パターン認知) ができるかである。**pattern recognition** ができなければ「パターン認知症」ということになるのか？

この順送り式要素の自動割り振り装置(**apparatus**)も上記、生成 AI アプリとも機能上で接点をもつか？本連載(49)で示唆したが、ここでの文も基本的に各項を軸に逆さ読みでの **reverse sentence pattern practice (R-SPP)** [仮称]で **deep learning** (深層学習) となる。情報構造上、前 (左) の項を次々と既知情報(given information)化してしまう要領である。文を左→右ではなく、右→左と逆に追うのである。深く根づく秘技となる。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01- 05)より — 2 言語対照]

(2) Reason I canceled my trip to London is that I am not a big fan of the Obama Administration having sold perhaps the best located and finest embassy in London for “peanuts,” only to build a new one in an off location for 1.2 billion dollars. Bad deal. Wanted me to cut ribbon — NO! (January 11, 2018)

cf. CANCELÉ mi viaje a Londres porque no soy fan de que la Adm. Obama haya vendido la tal vez mejor ubicada y más bella embajada en Londres por “miserias,” para construir una nueva en una ubicación lejana por 1.2 mil millones de dólares. Mal trato. Querían que cortara el listón. ¡ No ! (11 de enero, 2018)

▲くだけた文体で文頭の **reason** の前と **ribbon** の前に冠詞が略されている。Bad deal. では It was a など、最後の文 Wanted me ... の頭にも They なしである。また、off location は off-location とハイフンを付すのが正式ではある。hyphen は {hyph (= under) + en (= one)} で、「1 つの支配下にあること」を意味する記号である。また、英語では常識語でもある **peanuts** (二束三文の小額) という俗っぽい語が用いられてもいる。

この tweet 内容はかなり問題とされた。「ロンドンにあった立派なアメリカ大使館を安値で売り払い、へんぴな場所に 12 億ドルで大使館を造った Obama 政権はとんでもない取引をした、ロンドンへ出向くことはやめにした、私に (大使館設立の祝典での) テープカットをやってもらいたがるなんてとんでもない！」という内容である。

太線語 **ribbon** は Basic 語によりどこを求めれば **band, bent** と同系であるし、プラス α Basic 語 **combination** などとも同系。un-Basic 語 **bind, bundle, bond, bound** などとも同系で「束ねて結びつけること」が原義である〔同上拙著、第二部、例(86)参照〕。

付け加えておくが、文中の語 **embassy** (大使館) は本連載(1)の⑦ですで見えた。プラス α Basic 語であり、原義は「動き回り活動すること」である。

なお、音声面で最初の振出し文 Reason I canceled my trip to London is that I am not a big fan of ... で複線とした **is** は発話では強勢を置き ... London **IS** that ... のようになる。ただし、執拗にこういう word stress に関し断定的にとらえるべきではない。特に声の抑揚としての intonation に関しては混乱のほうが大きくなり逆効果となるので要注意。

文中でもう 1 つ複線とした語 **bad** の母音 [æ] は後続の子音が有声音 [d] であるので実際

には[bæ:d]のようになり、後続子音が無声音の[t]である bat[bæt]とは相当な違いがある。

<母音[æ]の声帯の振動時間> : [bæ:d] (長い) cf. [bæt] (短い)

分かりやすい例でたとえば Yes, it is.などでの it is での母音[i]の長さに注目すれば、後続子音のそれぞれ無声/有声 ([t]/[z]) からこれは[ití:z]のようになって実現する。他の例を挙げれば hat/had; sat/sad; back/bag などすべて同じとなる。

関連もしてここで触れておくと、本物調の英語の呼吸法では特に無声破裂音(閉鎖音) [p], [t], [k]の後ろにアクセントのある母音が後続する場合に軽い氣息音(aspirate)の[h]が入るのであるが、これを用いないと決して英語的に響いてこない。たとえば part, ten, cat などすべてこの例であるが、part の米音の例でそれを図で示せばおおよそ次のようになる〔実線は声帯の無振動、破線は上と同様に声帯の振動を表す〕。

part の例 : |—|—|————| cf. <日本語風発声> : |————|

[p^h ar: t]

[p a: t]

こういう例では日本人の英語の[p]音は両唇の閉じ方も軽く、[p]の直後に声帯を振動させるが、ネイティブは両唇の閉じ方に圧力がありその直後で氣息音[h]化させる。この違いは大きい。ten であれば [t/閉鎖/, -^h/破裂/, -ɛn/振動/] のような示し方もできようが、筆者はこれをエンジンの4工程(吸気・圧縮・爆発・排気)にもたとえている。いずれにせよ、呼気音(egressive)を用いる呼吸法によらない限り本物の英音の響きにはならない。

さらに母音では中舌中央母音(schwa)の[ə]が英語に支配的に現れ、この音が日本人の民族聴覚脳ではこもって聞こえ処理しにくいことは本連載前々回(49)でも確認した。上の2)の tweet 文が発話されたものと仮定すると、音声(sound)は次のような音素結合(phonemic combination)の下でステレオ音化(stereophonic)で実現する。

/ 'ri:zən ai 'kænsəld mai trip tə 'lændən iz ðæt ai æm nɒt ə big fæn əv ðə ou'ba:mə
ədminəs'treɪʃən 'hævən sould pə'hæps ðə best lou'keitəd ənd 'faɪnəst embəsi ɪn 'lændən fər
'pi:nəts 'ouli tə bild ə nju: wən ɪn ən ɔ:f lou'keɪʃən fər wən point tu: 'biljən 'dɒlərz bæd di:l
'wɒntəd mi tə kət 'ribən nou /

母音[ə]はしばしば消音化もするが、舌が若干高くなる[ɪ]もあり厳密には違うが似ても響く。英音を原理的に支配している母音が下線で示した中舌中央母音[ə]であり、これを基準音とした呼吸法で音程上の響きが決まると言えよう。上文では約 30 個の[ə]が現れる〔西洋語で日本語の呼吸法と合うのはやはりスペイン語で、structural linguistics が発見した概念としての「音素」も数がほぼ日本語と同じである〕。また、日音と異なり画一性のない英音の響きの多様性・個人差(individual style of utterance)が生理的に日本人の言語脳では同じ音素(phoneme)の異音(allophone)としての識別を困難にする。

cf.のスペイン語 cancelé (< cancelar), viaje, porque, fan, adm. (= administración), más, embajada, miserias, construir, nueva, dólar, trato は、それぞれ英語の cancel, voyage, **for what**, fan, administration, **more** (< **much**), *embassy*, misery, construct, **new**, dollar, treatment に対応し互いに同系の関係にある〔太字体は Basic 語、イタリック体はプラスα Basic 語、下線は Basic の範疇語〕。なお、文中のスペイン語 listón は英語 ribbon とは同系ではない(スペイン語 banda が上記、英語 **band** に対応し同系)。

ここでの英語 Wanted me to cut ribbon.に対応するスペイン語は Querían que cortara el listón.とされ、心中の願望であり叙法(mode)はスペイン語では叙想法となる。